

普及センター もりおか 11月

インターネットでオールカラーの記事が読めます！

いわてアグリベンチャーネット 普及センターもりおか

検索

第 208 号 令和 5 年 10 月 20 日発行
盛岡農業改良普及センター
盛岡市内丸11-1 盛岡地区合同庁舎
TEL 019-629-6725 FAX 019-629-6739

普及センター R5活動紹介

各課の活動をピックアップして紹介します！

PICK UP!

経営指導課：使わないのはもったいない！～麦わらの敷料利用実証を開始～

去る7月27、28日に、紫波町の小麦収穫後のほ場で、麦わらの家畜用敷料利用に向けた乾燥、収集の実証を行いました。

紫波町は、県内でも有数の小麦産地ですが、これまで収穫後の麦わらの多くは、細断後にすき込まれ、利用されていませんでした。一方、畜産で敷料として利用するおが粉は、価格高騰の影響で手に入りにくい状況でした。

そこで、未利用の麦わらを収集し、おが粉に代わる敷料としての活用を検討するため、地域経営推進費を用い、当普及センターと盛岡広域振興局農政部が連携して実証を行っています。

6月下旬から小麦の収穫が始まりましたが、その後、雨が続いたため、なかなか麦わらの収集ができませんでした。当日は梅雨明け後の好天に恵まれ、十分に乾いた状態の麦わらを収集することができました。

普及センターでは、今後、収集した麦わらを牛舎で敷料として実際に利用し、牛への影響などを確認していく予定です。



収穫後の小麦ほ場で、麦わらを収集する様子。



好天に恵まれ、十分に乾いた状態で収集された麦わらのロール。



産地育成課：紫波町で知事による「銀河のしずく」稲刈り行事が開催されました。

JAいわて中央「銀河のしずく」栽培研究会では、9月19日に紫波町星山地区の水田に達増知事を招いて稲刈り行事を行いました。稲刈り行事では、初めに知事がコンバインに乗り込み収穫作業を行いました。その後、紫波町産の「銀河のしずく」の新米でできたおにぎりを試食しながら、生産者と懇談を行いました。

懇談の中で、知事は「今年も粒のしっかりとした、美味しい『銀河のしずく』ができた。県内や首都圏でPRする」と語っていました。

令和5年度のJAいわて中央における「銀河のしずく」は、約1.1万トンが県内外に出荷される見込みです。順調に「銀河のしずく」の収穫が進み、間もなく新米が店頭に並ぶ見込みです。美味しい「銀河のしずく」を今年もご賞味ください。



知事による稲刈り作業



生産者との意見交換

「銀河のしずく」の新米のおにぎりを試食しながらの懇談



地域指導課：令和5年度盛岡地域産直「冬季野菜栽培研修会」を開催！

盛岡地方農業農村振興協議会と盛岡農業改良普及センターでは、令和5年8月30日、盛岡地域の産直組合員や関係者を対象に「冬季野菜栽培研修会」を開催しました。これは、秋まき野菜の栽培管理と最新の品種等を学ぶことによって、野菜生産技術の向上と冬季の商品拡充を目的としたものです。

はじめに、当センター職員が講師となり、こまつなやほうれんそうといった代表的な秋まき野菜の栽培管理や病害虫防除について説明しました。

次に、株式会社佐藤政行種苗 取締役顧問 松浦健一様から、秋でも育てやすい最新品種等を紹介いただきました。焼き鳥にも使用しているかぶや、抽苔しにくく、おいしいほうれんそうなど、印象的な表現でわかりやすく講演頂きました。また、質疑応答では、参加者から野菜栽培のコツや紹介された品種の育て方など、熱心な質問が寄せられました。

盛岡地方農業農村振興協議会では、今後も産直に役立つ研修を企画開催していきます。



熱心に聴講する参加者

